

## 「土質改良」基幹技能者講習実施機関として申請

2023年6月28日、JASRAは国土交通省建設市場整備課へ「登録土質改良基幹技能者」講習実施機関として申請しました。

JASRAが新設する「登録土質改良基幹技能者」における“土質改良職”とは、「①攪拌混合機の機械取扱いだけでなく、多様性のある各種性状改質材の特性および取り扱いに熟知し、攪拌混合後の土の状態について精通している技能。②基礎地盤や建設発生土と各種性状改質材を添加・攪拌混合する際、構造物の安定性や支持力確保のため、粒度調整、pH調整、強度等、目的物の要求事項に応じた土質改良ができる能力。」と定義しています。

本資格は、建設業法に基づく「とび・土工工事業」又は「土木工事業」について単一の業種で10年の実務経験と、同業種で3年以上の職長経験、職長・安全衛生責任者教育に加えて指定した技能講習修了を受講要件とし、作業現場において、より実践的な技能者を育成することを目指します。今後、講習実施機関として認定を受けた後、「講習委員会」を設置し講習実施機関としての運営体制を構築します。

参考：登録基幹技能者に関する情報

<https://www.kensetsu-kikin.or.jp/humanresources/technician/index.php>

## “水が出ない”地下工事!? リニア中央新幹線「神奈川県駅(仮称)」建設現場を視察 ～「土サミット FUKUOKA 2023」にてオンライン見学会を予定～

JASRAは6月19日、奥村組JVが建設を進めるJR東海リニア中央新幹線の「神奈川県駅(仮称)」の視察を行いました。同駅は、深さ約30mの地下3階建て、延長約680m・幅約50mという巨大な構造物となります。

工事に伴う建設発生土は約85万 $m^3$ で、そのうち約20～25万 $m^3$ は現場内で流用されるそうです。連壁工法によって地下水がほぼ出ない形で施工されていました。

この建設現場のライブ中継を「土サミット FUKUOKA 2023」(<https://tsuchi-summit.com/>)にて行います。是非ご参加の上、この注目度の高い工事の状況をご覧ください。



▲ 建設中の発生土の約20～25万 $m^3$ は再利用される予定(右上写真は仮置き盛土)

◀ 駅舎構造物中心地点での記念撮影

## 会員紹介

# 大坪GS | 株式会社

福岡県柳川市大和町徳益 416  
TEL 0944-74-6811

## 大坪GS | 株式会社の事業

運搬と土木、砕石事業から始まった大坪GS | 株式会社は、がれき類や汚泥等の建設系廃棄物をはじめ、多種多様な産業廃棄物・不要物をリサイクルし、さまざまな資材へと再製品化しています。その中で、建設発生土の改良事業にも地域でいち早く着手しており、その歴史は20年以上になります。さらなる廃棄物を排出しない100%リサイクル「ワンストップマテリアルリサイクル」を基本方針として、地域のニーズにお応えしています。



## 自走式土質改良機「SR2000G-6」の導入

現場で発生した建設発生土を処理改良し、その場で再利用することができる土質改良機を、弊社は平成18年に導入。令和3年からは2代目が稼働中です。様々な原料土を効率よく改良できるので、工期短縮、コスト削減に繋がり、お客様に喜んで頂いております。



## 地域のお困りごとを事業に

弊社は近年、地域のお困りごとをヒントに事業展開を行っています。主軸のリサイクル事業から派生した「土木や解体事業」、解体事業から派生した「遺品整理・生前整理の終活事業」、リサイクル工場近隣の耕作放棄地利用と地域活性化を目的とした「農業事業」など、お困りごとから始めた事業は多岐に渡ります。これからも私たちは地域の声に耳を傾け事業展開をし続けます。



会員紹介

**株式会社 英光産業**

大阪府東大阪市菱江2-15-6  
 TEL 072-961-9210

**“自然との共生” がコンセプト**

当社は平成2年に産業廃棄物のがれき類の中間処理業として開業。平成13年、建設発生土のリサイクルプラントに着手しました。昨今、限りある資源や省エネルギーなど、地球環境保全に対する関心が高まるなかで、建設工事等で発生する建設副産物に注目し、リサイクルする事で建設資材としての再資源化を進めています。また、がれき類は再生路盤材として、発生土は埋め戻し・盛土用の改良土として活用されています。

私たちはこのように、時代のニーズに応える事業展開により、「自然との共生」をコンセプトに自然を守りムダを出さない循環型社会の形成推進に寄与し、地域社会の発展に貢献してまいります。

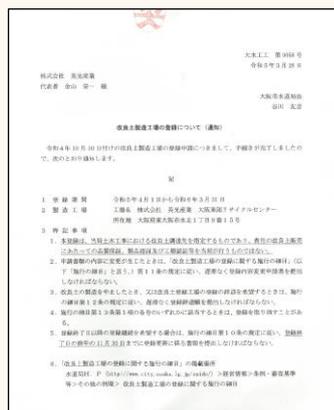
**菱江工場（中間処理場）**



**大阪東部リサイクルセンター（建設発生土リサイクルプラント）**



▼改良土登録証（大阪市水道局）



○主要取引先

鹿島建設（株）、（株）大林組、大成建設（株）、清水建設（株）、（株）奥村組、戸田建設（株）、五洋建設（株）、（株）熊谷組、（株）フジタ、（株）鴻池組、大豊建設（株）、（株）浅沼組、大日本土木（株）、（株）ハンシン建設、岸本建設（株）、鳳工業（株）、（株）森組、奥村組土木興業（株）、前田道路（株）、大鉄工業（株）、ヤマト工業（株）、（株）森本組、青木あすなろ建設（株）他

## 第7回技術研修会 報告

### 「広島県・岡山県における建設発生土の有効利用について(その2)」

令和5年6月14日、第7回オンライン技術研修会「広島県・岡山県における建設発生土の有効利用について(その2)」が開催された。講師は、前回に引き続き(株)山陽地質コンサルタント 顧問の柳生豊晴さまをお願いした。

平成15年から改良土を岡山県・広島県で普及させてから今日に至るが、石灰改良土以外にさまざまな形で土のリサイクルを行ってきた柳生氏。その実績の中から主要なものを教えていただいた。

1つ目は「流動性改良土」。0~20mmの改良土に大量の水とセメントを投入し攪拌、ミキサー車で現場に持ち込むもの。高い流動性を持つので狭小な空間でも容易に埋戻し・充填ができ、地盤の空洞化防止に効果がある。これは、もともと福山工場に燃え殻・ばいじんリサイクルプラントがあったので、それを流用して開発したとのこと。

2つ目は、「再生鋼土(はがねど)」。「鋼土」とは、ため池等の堤体盛土として用いる遮水を目的とした土のこと。中国・四国地方では、自然の鋼土がよく使われていたが、柳生氏はリサイクル製品として鋼土を開発した。石灰改良土に粘土を混合させ、透水係数 $1 \times 10^{-5}$  cm/s以下になるよう品質管理している。

3つ目は、「再生抱土(だきど)」。「鋼土」を保護するように上乘せして透水性をやや高くしたもの。再生鋼土と同じ製造方法だが、透水係数を $1 \times 10^{-5} \sim 10^{-3}$  cm/sになるよう品質管理している。

いずれも「広島県リサイクル製品」に登録されていると述べた。



(株) 山陽地質コンサルタント 顧問  
柳生豊晴 氏

## お知らせ

### 【1】 行事予定

- ・9月12日(火)：第8回技術研修会/会員向け オンラインセミナー
- ・10月26・27日(木・金)：「土サミット2023」/会場：ホテルニューオータニ博多

### 【2】 定時社員総会の予定

- ・8月18日(金) 15:30~：「第3期定時社員総会」/会場：第一ホテル東京(東京/新橋)

### 【3】 8月1日現在の会員数

- ・正会員57社 賛助会員30社 特別会員2社 合計89社

### 【4】 投稿記事の募集

- ・「JASRA ニュース」では、会員の皆様からの投稿記事を募集しています。ご希望の方は、下記事務局までお問合せください。

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町22

電話：03-3526-2129 FAX：03-3526-2139

E-mail：[info@jasra.or.jp](mailto:info@jasra.or.jp) URL：<https://jasra.or.jp/>

-----JASRA ニュース VOL.07 令和5年8月1日発行-----